

中級学習者の聴解における困難点

－中級 I 聴解クラスの実践から－

林 朝 子

The Difficulty in Listening of Intermediate Learners －Report on Dictation Testing in Intermediate I Listening Comprehension Classes－

HAYASHI Asako

〈Abstract〉

The purpose of this report is to know what difficulty learners have in listening and what mistakes they make. Dictations were used for this purpose. As a result of this report, learners have mainly three difficulties in listening: 1) vocabulary; 2) grammar; and 3) style.

First, in the intermediate course learners study a lot of new vocabulary which they are not familiar with. It is hence difficult for them to recognize, understand and memorize all the new vocabulary. Second, when grammatical items are complex, learners cannot understand all of them. Third, the 'DEARU' style is new to learners, so it is hard to grasp it.

キーワード：ディクテーション、誤答、親密度、文法、文体

1. はじめに

本稿では、初級を終え中級の学習過程において、学習者が聴解に対しどのような困難を感じているのか、また、今後どのような指導が望まれるのかを考察していきたい。

では、一体学習者はどのような困難点を持っているのだろうか。日本語学習者としてスチャダー・Pは、次の5つの日本語聴解における困難点をあげている。音声的な面、語彙的な面、文法的な面、文体的な面、語用論的な面である^①。実際、中級へと学習が進むと、語彙数が増加し、表現も話し言葉的なものから書き言葉的なものが多くなり、文自体も長くなり、文法項目が一文内に複数含まれるようになる。このような実情から今回は、①語彙的な面、②文法的な面、③文体的な面を中心にディクテーションテストを行い、考察を行った。なお、音声的な面に関しては、釜淵（2000）^②に詳しい。

2. 分析方法^③

2-1. 対象

対象とした学習者は、2000年度前期三重大学留学生センター中級Iコース聴解クラスの留学生である。このコースでは、週に4コマの文法クラスが必修科目となっており、聴解クラスは選択科目である。しかし、中級Iコースの学習者の多くが、聴解クラスも履修している。

学習者の母語についてみると、中国語9人、韓国語1人、ペルシャ語1人であった。

日本語学習歴でみると、三重大学で日本語初級集中(日研)コースを修了した者か、あるいは、プレースメントテストによって中級レベルと判定された者である。

2-2. 使用教材

ディクテーションテスト(以下テスト)の教材には、東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『中級日本語』(凡人社)の本文を使用した。これは必修文法クラスのテキストであるが、文法クラスと聴解クラスの授業内容を関連付け、テキスト内容の定着をより効果的に行う目的で用いた。文法クラスで学習した内容を聴解によって確認するために、テストは文法クラスにおいて、各課の学習を全て終えてから実施した。テストは第1課から第9課までを行った。

テストは、釜淵作成によるものを、一部修正し使用した。今回の考察対象である文法的、文体的なものを加えた。また、釜淵の実践の中から、誤答が少ないと考えられた箇所も別のものに替えた。設題は文節単位を9問から11問に、文単位を1問から2問に増やした。ただし、誤答の現れ方をみるため、文節単位は厳密な基準にはなっていない。

2-3. 実施手順

テストは『中級日本語』本文のテープを使用した。実施手順は次の通りである。

(1) テープの聞き取り

- ①テストを配布し、テープを通して聞く。②設問ごとにテープを止め、解答する。
- ③文節単位ではテープを止めずに、文単位では止めて聞く。④テープを通して聞く。

テープは計4回聞かせた。ただし、4回聞く必要がない場合もあった。

(2) 解答方法

全てひらがなで表記させた。漢字のみでは、漢字圏学習者に有利になるためである。ただし、外来語はカタカナで表記させた。

(3) 解説

テストを回収し、解答を配布し、特に目立った誤答をその場で簡単に説明する。

また、翌週には添削したものを返却し、クラスに共通する誤答を説明する。

3. 誤答分析

3-1. 分類方法

テストを行った設題を、次のように分類し、学習者の誤答を分析していく。

1. 名詞 2. 副詞 3. な形容詞 4. 接続助詞 5. 後置詞 6. ヴォイス
7. アスペクト 8. 文体

8. 文体では、中級教材から多くみられる「である体」を取り上げた。また、1. 2. 3. は①語彙的な面、4. 5. 6. 7. は②文法的な面、8. は③文体的な面として扱った。

3-2. 分析結果

学習者の誤答において目立ったものを分類ごとに取り上げ、さらに、細かく分けて項目別にし、誤答の傾向をみた。なお、() 内の数字は学習者の誤答率、○内の数字は同じ誤答者数を示す。

3-2-1. 名詞

名詞に関しては比較的正答率が高かったが、その中で誤答率の高かったものをみていく。

名詞の中で、数字に関する語彙は聞き取りが難しいであろうと予測をしていたが、数字に関する誤答は少なかった。

1) 外来語

バラエティー (90%) バライティー⑥、バランティー、バランディ、ばらいて
ファーストフード (60%) ファストフード②、ファーストフウード、ファースト
フート、バストフート、パストコット

ビニール (30%) ビニル②、ピリール

ダム (30%) ダムー、だん、だんむ

学習者にとって、外来語の聞き取りはかなり困難と見られる。また、何となくは聞き取れてはいるが、カタカナの表記の方法が分からない学習者もいるようだ。一方、外来語ということに気付かず、ひらがなで表記する者もあり、外来語の定着度の低さが窺える。

2) 親密度が低い語彙

風土 (55%) ふうどう④、ふうと、ぶっどう

温室 (50%) おもちつ、おしつ、おいしつ、おいしず、おおいしつ

不自由 (40%) ふじゆ②、ふじゅゆ、ふじのにな

これらは、学習者にとって比較的親しみのない語彙であるため、聞き取りが困難であったとみられる。「温室」などは、学習者が意味を理解できずに、聞こえたまま表記したと思われる。また、「不自由」は、接頭辞「不」がついたため、「自由」の部分まで聞き取りが困難になったと考えられる。

3) 固有名詞

新宿御苑 (70%) しんじゅくぎょうえん②、しんじゅくきょえん、しじゅくぎおえん、しんじゅくぎえん、しんじゅくきょえん、しんじゅくぎょえん

固有名詞は、今回のテストにおいて、この1語のみであった。「新宿」という地名は学習者の中にも知っているものが多く、比較的正確に聞き取れた。しかし、「新宿御苑」という初めて知った固有名詞の定着は低く、聞き取りも困難であったと考えられる。

3-2-2. 副詞

副詞の誤答は、ほとんどなかった。「ちょうど」を「ちょうどう」と聞き取ったものが10%いただけだった。

今回設題した副詞は、「その後」を除き、全てひらがなで表記されているものであった。そのため、学習者自身、語彙を覚える段階から、正確なひらがな表記を覚えており、聴解を通して正確に聞き取れたのであろう。

3-2-3. な形容詞

1) 親密度が低い語彙

手軽に (50%) てがるには、てかるに、てがに、てある、かみ

中国語圏の学習者は「手軽に」と漢字では書けたのであるが、ひらがなの表記が「てかる」となっていたり、また、「てがに」「かみ」「てある」と書いた学習者は、全く「手軽に」という語彙が聞き取れていないと考えられる。学習者にとって、「手軽に」という語彙を使う場面では、「簡単に」という語彙で代用してしまうことが多く、この語彙の定着は低いのではないだろうか。

2) 「～的」と表記する語彙

代表的な (40%) たいひょうてき②、だいようてきな、たいひょうでき

積極的に (27%) せっきよくてきな、せっきよくてき、せつじよくてきに

合理的な (18%) こうりてきな、ごうりてきな

これらの語彙の誤答は、中国語圏の学習者に多く見られた。「～的」という表現は中国語にもあり、中国語における「的」がな形容詞の「な」にあたり、聴解時に漢字表記の影響を受け、「な」を聞き取れないのではないだろうか。また、「的」を「でき」と濁音で聞き取る者も多かった。

3-2-4. 後置詞

後置詞の聞き取りは、誤答がなかった。設題が少なかったという問題点はあるが、先にあげた副詞の場合と同様、学習者が語彙を覚える段階からひらがな表記で覚え、その結果、聴解を通して正確に聞き取れたのであろう。

3-2-5. 接続助詞

今回は、接続の働きをする動詞のて形も分類の便宜上、接続助詞に分類した。

1) 「～と」

どちらかと言うと(45%) どちらがというと③、どちらがとようと、どちらかどういうか

「と」が聞き取れなかったのは9%だけであり、「と」そのものは比較的よく聞き取れていた。この設問に関しては、学習者は不定語「どちらか」の聞き取りが難しかったようだ。36%の者が、「どちらか」を疑問語「どちら」+格助詞「が」と聞き取っていた。

2) 「～ば」

終わりでなければ(40%) おわりなければ②、おわりてなければ、おわりてなければ
味さえよければ(30%) あじさいよければ③

「ば」もよく聞き取れていた。「と」の場合と同様に、他の部分の聞き取りが難しかったようだ。名詞のて形接続の間違いが目立った。また、「～さえ～ば」は、テキストで文型として取り上げられているが、聞き取りとしては「さえ」が難しかった。

3) 「～たら」

「たら」に関しては、よく聞き取れていた。

4) 「～たり」

着たり脱いだり(40%) きたりぬいたり②、きたりのいだり、きたりはいたり
「たり」に関しては、後続する動詞の活用の間違い、聞き間違いが目立った。

5) 「～し」

簡単だし(30%) かんたんたし、かんたんなし、かんだんらしい

「し」に関しても、活用の間違いがあった。また、「し」を「らしい」と聞き取った者もいた。

6) 「～て」

どぎまぎして(55%) どぎまぎ③、とぎまぎしれて、どぎまぎをして、どぎまぎして
覆って(9%) おおて

今回の設題では、動詞のて形のみであったが、まず「どぎまぎする」という動詞の聞き取りが難しかったようだ。また、聞き取れても、て形の活用の間違いがある。

3-2-6. ヴォイス

1) 可能

楽しめる (70%) たのしむ④、たのしみ②、たのしめ

食べられない (30%) たべられな、たべならない、たべない

この2つの動詞は、学習者にとって既習語であった。しかし、全く可能形に聞かれない者が多かった。また、可能形+否定形となると、聞き取りの困難さが増すようだ。

2) 受身

包まれている (30%) つつわれて②、つづあれ

受身形は比較的よく聞き取れていた。「包まれている」は、アスペクト「ている」まで聞き取らなければならず、難しかったようだ。

3-2-7. アスペクト

1) 「～ている」

ものとなっている (50%) ものもなっている、ものになっている、ものがである、ものもある、ものがある

見慣れていた (50%) みられていた②、みながれていた、みなれていった、みなれたいった

属しており (50%) そくしてより②、ぞくしておおい、づくしっており、ちょくしてより

「ている」については、聞き取れているものが多かった。しかし、動詞のて形の間違いが多かったり、動詞が抜けてしまっているものがいた。また、「いる」が敬語「おる」になると、聞き取りの困難度は高くなる。

2) 「～てある」

うえてある (30%) うえてある、うえである、ふえてある

「てある」も、聞き取れてはいるが、やはり動詞のて形間違い、動詞の聞き間違いが目立つ。

3) 「～てくる」

心配も出てくる (30%) しんぱいにでてくる、しんぱいしてくる、しんぱいもってくる

「てくる」に関しては聞き取れているが、動詞の聞き間違いが目立つ。おそらく「心配」という語彙に比重が大きくなり、動詞の聞き取りが困難であったと考えられる。

4) 「～てしまう」

びっくりしてしまった (27%) びっくりしました②、びっくりしてしまった

「てしまう」は聞き取りが難しく、全く聞き取れていない者がいた。

3-2-8. 文体「である」

済むことなどである (80%) することなどである②、すむことがのである、すむことである、すむことなのである、そのことである、すむことがある、することがある

一つであるといえる (50%) ひとつであるといえる、ひとつである、ひとつあるといえる、ひとつのといえるである、ひとついえである

「である」が付くことで、聞き取りの困難さは増すようである。「ある」を学習者と親密度の高い存在・所有を表す動詞の「ある」と聞き間違い、「がある」とするものが目立った。また、途中に「である」が使われる場合、後ろの語との混乱がかなりみられた。

4. まとめと今後の課題

今回のテスト結果を、①語彙的な面、②文法的な面、③文体的な面からまとめ、今後の指導に望まれる点を考えてみる。

①語彙的な面

学習者にとって、親密度の低い語彙は、聞こえてきた音声を優先させるか、あるいは親密度の高い既習語彙に置き換えて聞き取ることが多い。外来語に関しては、カタカナ表記に慣れていないために、表記方法で間違ったものもいると考えられる。カタカナ表記の指導も必要であろう。また、漢字圏の学習者は、漢字を通して視覚的に理解できるため、正確な漢字の読みができないものが目立つ。読解・会話の点から考えて、正確な漢字の読みの定着が望まれるだろう。

②文法的な面

動詞や形容詞などの活用間違いが多くみられた。また、複数の文法項目が同時に現れる場合は、一つのみ聞き取れるか、あるいは、全てが混乱してしまうことが多い。おそらく学習者は大まかな意味は聞き取り、理解できてはいる。しかし、文法的に正確性がなければ、意味の取り間違いが生ずることもあり、正確に聞き取る能力を高める必要があるだろう。

③文体的な面

中級から多く使用される「である」体には、まだ慣れていない者が多い。今後、中級

から上級へ学習が進むにつれ、多く使用される文体であり、より学習を深める必要があるだろう。

今回の実践では、語彙的な面、文法的な面、文体的な面を中心にテストを実施し、考察を行った。しかし、文法項目において偏りがあり、助詞、ヴォイスの使役・使役受身、アスペクトの「ていく」、ムードなど分析できなかった項目も多い。今後、さらにテストの設題を作成し直し、考察を続けていきたい。

注

- (1) スチャダー・P (1987)「私の日本語聴解の困難」『日本語教育』64号 日本語教育学会 pp. 149-153
- (2) 釜淵優子「中級聴解クラスにおけるディクテーション実践報告－誤答率からみる誤答要因」『三重大学留学生センター紀要』第2号 pp. 93-104
- (3) 中級Iコース文法必修クラス、聴解選択クラスの内容に関しては、以下の論文に詳しい。
加賀美常美代・藤城浩子 (2000)「中級Iコース文法必修クラスの教育実践研究－授業デザイン、教材開発及びその評価」『三重大学留学生センター紀要』第2号 pp. 81-92
釜淵優子 同(2)

付記

中級Iコース聴解クラスを進めていくにあたり、中級Iコースのコーディネーターである加賀美常美代先生には、多くのご助言をいただいた。また、釜淵優子先生には先生作成のテストを基に今回のテストを作成・実施させていただいた。厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 小河原義朗 (1996)「ディクテーションにおける誤聴分析の試み」『外国人日本語学習者のディクテーションに見られる語聴解の分析』平成5～7年度科学研究費研究成果報告書(代表研究者: 小林典子) pp. 21-38
- スチャダー・P (1987)「私の日本語聴解の困難」『日本語教育』64号 日本語教育学会 pp. 149-153
- フォード丹羽順子 (1996)「日本語学習者による聴解ディクテーションに現れた謝りの分析－文法および音声の側面に焦点を当てて－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』11 pp. 21-40
- 益岡隆志・田窪行則 (1992)『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版
- 山本富美子 (1994)「上級聴解力を支える下位知識の分析」『日本語教育』82号 pp. 34-46

資料 (設題によっては複数の分類項目に属すものもある)

<名詞>

課	設 題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 1	害虫	2 / 10	20	かいしゅう、がいちゅ
	種類	1 / 10	10	しゅうるい
L 2	スーパー	1 / 10	10	スーパ
	食料品	2 / 10	20	しょくりゅうひん、しょくりょうへん
	商品	1 / 10	10	しょうへん
	ビニール	3 / 10	30	ビニル②、ピリール
L 3	警察	0 / 10	0	
	昭和	3 / 10	30	しよわ②、しょうが
	二割ぐらい	0 / 10	0	
	戦後	2 / 10	20	せん、ぜんご
	老人	1 / 10	10	ろじん
	百年	1 / 10	10	はやっくねん
	欠かせないもの	0 / 10	0	
	成人式	0 / 10	0	
L 4	アジア大陸	4 / 10	40	アジアだいいく③、アジアたいりょく
	北東	2 / 10	20	ほくどう②
	弓	1 / 10	10	よみ
	三割程度	1 / 10	10	さんわりていどう
	中央	2 / 10	20	ちゅうおん、ちゅうえう
	世界一	0 / 10	0	
	十八分の一	0 / 10	0	
	技術者	1 / 10	10	ぎじゅうつしゃ
	特徴	1 / 10	10	とうくちょう
	ダム	3 / 10	30	ダムー、だん、だんむ
	水力発電	4 / 10	40	すいりくはつでん、すいりょうはつでん、すいりょく はっつでん、すいりょくはってん
L 5	三百種	3 / 10	30	さんびょくしゅ、さんびゃくしゅう、さんびゃくしゅうるい
	時期	1 / 10	10	じぎん

L 6	新宿御苑	7 / 10	70	しんじゅくぎょうえん②、しんじゅくきょえん、しんじゅくぎおえん、しんじゅくぎえん、しんじゅくきょえん、しんじゅくぎょえん
	行事	0 / 10	0	
	不自由	4 / 10	40	ふじゅ②、ふじゅゆ、ふじのにな
	使うもの	0 / 10	0	
	取り扱い	1 / 10	10	とりあづかい
	証拠	2 / 10	20	しょうご②
	硬貨	1 / 10	10	こっか
	旅費	3 / 10	30	りょうひ②
	貿易	2 / 10	20	ぼうえき、ほうえき
	交換	2 / 10	20	ほうかん、ごうかん
L 7	そのため	0 / 10	0	
	主食	1 / 10	10	しょくとう
	仏教	2 / 10	20	ぶきょう
	調味料	2 / 10	20	ちょうみおりょう、ちょうめりょう
	バラエティー	9 / 10	90	バライティー⑥、バランティー、バランディ、ばらいて
	乳製品	3 / 10	30	ゆうせいひん②、ようせいひん
	温室	5 / 10	50	おもちつ、おしつ、おいしつ、おいしず、おおいしつ
	インスタント食品	5 / 10	50	インステントしょくひん、インスターラントしょくひん、インスタンドしょくひん、インスタントしょうきん、インスタントしょくへん
	調理済み	5 / 10	50	ちょうりょう、ちょうりつも、しょうひずみ、じゅりつ、じゅうりつ
	ファーストフード	6 / 10	60	ファストフード②、ファーストフード、ファーストフット、バストフット、バストコット
L 8	ヨーロッパ	2 / 11	18	ヨロッパ、ヨロッパ
	乗客	3 / 11	27	じょうきょく、ちょうきょく、しょうきょく
	同士	1 / 11	9	とうし
	子供連れ	3 / 11	27	こどもつれ、こともづれ、こどもがつれ
L 9	風土	6 / 11	55	ふうどう④、ふうと、ぶっどう
	北極圏	4 / 11	36	ほうきょくけん②、ほっきょくげん、ほっきょうけん

風通し	1 / 11	9	かぜをとおし
支柱	0 / 11	0	
入手	5 / 11	45	にゅうしゅう④、にゅうしゅてきに
通風	3 / 11	27	つうふ②、つふう

<副詞>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 3	その後	0 / 10	0	
	ほとんど	0 / 10	0	
L 5	ちょうど	1 / 10	10	ちょうど
L 6	ふだん	0 / 10	0	
L 8	わざわざ	0 / 10	0	
	むろん	0 / 10	0	
	いっそう	0 / 10	0	
L 9	せいぜい	0 / 10	0	

<な形容詞>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 2	不便な	0 / 10	0	
L 5	代表的な	4 / 10	40	たいひょうてき②、だいようてきな、たいひょうでき
	重要な	0 / 10	0	
L 7	手軽に	5 / 10	50	てがるには、てかるに、てがに、てある、かみ
L 8	積極的に	3 / 11	27	せっきよくできな、せっきよくてき、せっじよくてきに
L 9	容易に	1 / 11	9	ようんに
	合理的な	2 / 11	18	こうりてきな、ごうりできな

<後置詞>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 1	産地として	0 / 10	0	
L 4	南西にかけて	0 / 10	0	
L 5	によって	0 / 10	0	

<接続助詞>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 1	実がなると	0 / 10	0	
	かぶせたり	1 / 10	10	かぶせたし
	終わりでなければ	4 / 10	40	おわりなければ②、おわりてなければ、おわりてなければ
L 2	そろったら	0 / 10	0	
L 3	時間がかかるし	0 / 10	0	
	着たり脱いだり	4 / 10	40	きたりぬいたり②、きたりのいだり、きたりはいたり
	簡単だし	3 / 10	30	かんたんたし、かんたんなし、かんだんらしい
L 5	欠けたり割れたり	0 / 10	0	
L 7	味さえよければ	3 / 10	30	あじさいよければ③
L 8	どちらかと言うと	5 / 11	45	どちらがという③、どちらがとようと、どちらかどういうか
	どぎまぎして	6 / 11	55	どぎまぎ③、どぎまぎしれて、どぎまぎをして、どぎまぎして
L 9	覆って	1 / 11	9	おおて

<ヴォイス：可能>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 1	食べられない	3 / 10	30	たべられな、たべならない、たべない
L 7	楽しめる	7 / 10	70	たのしむ④、たのしみ②、たのしめ

<ヴォイス：受身>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 1	詰められ	1 / 10	10	つめなれ
	並べられる	1 / 10	10	ならべられ
L 2	包まれている	3 / 10	30	つつわれて②、つづあれ
L 4	作られ	0 / 10	0	
L 9	倒される	1 / 10	10	かおされる

<アスペクト：ている>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 2	売り場にわかれている	4 / 10	40	うりばにはわかれている②、うりばがわかれている、
		1 / 10	10	うりばにはかいる

	包まれている	3 / 10	30	つつわれている②、つつあれている
	ものとなっている	5 / 10	50	ものもなっている、ものになっている、ものがである、ものもある、ものがある
L 4	並んでいる	1 / 10	10	ならんでいる
	見慣れていた	5 / 10	50	みられていた②、みながれていた、みなれていった、
L 7		1 / 10	10	みなれたいった、
	属しており	5 / 10	50	ぞくしてより②、ぞくしておおい、づくしっており、
	あっさりしている	1 / 10	10	ちよくしてより あさりしている

<アспект: である>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 5	植えてある	3 / 10	30	うえてある、うえである、ふえてある

<アспект: てくる>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 6	心配も出てくる	3 / 10	30	しんぱいにでてくる、しんぱいしてくる、しんぱいもってくる
	わかってきて	1 / 10	10	わかていて

<アспект: てしまう>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 8	びっくりしてしまった	3 / 11	27	びっくりしました②、びっくりしてしまった

<文末: である>

課	設題	誤答数	誤答率	誤答実例
L 1	並べられるのである	4 / 10	40	ならべられるのある②、ならべられるである、ならべられることがある
L 2	済むことなどである	8 / 10	80	することなどである②、すむことがのである、すむことである、すむことなのである、そのことである、すむことがある、することがある
L 5	遅くなるのである	3 / 10	30	おそくにである、おそくなるごどがある、おそくなるのであろう
L 7	一つであるといえる	5 / 10	50	ひとつであるといえる、ひとつである、ひとつあるといえる、ひとつのといえるである、ひとついえである